

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
国語	現代文A	2	3	セラミック デザイン 電気 機械	必修	「現代文A改訂版」 大修館書店

1. 学習の到達目標

- 1 近代以降の様々な文章を読み、文章を読む楽しさを味わい読書に親しむ。
- 2 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。
- 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する理解を深める。
- 4 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
評価の規準	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立つための音声文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。
評価の方法	授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、基礎力テストなどを総合的に判断して評価します。		

3. 教科からのメッセージ

人間は言葉によって思考します。言葉を理解する能力は人間の知的活動の根幹となるものです。また、就職試験、進学試験では、国語の基礎的な知識や表現力が必ず問われています。その意味でも、ぜひしっかり勉強して欲しいと思います。

令和4年度 現代文A指導計画案

現代文A	セラミック・デザイン 電気・機械	2単位
------	---------------------	-----

1 学習計画

学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容
1 学 期	1 ことばと社会 ○小川洋子 「きっと叶いますよ」 ○長谷川權 「和の思想、間の文化」 ○上田恵介 「ウサギの耳はなぜ赤い」 ○川上弘美 「排球、そして千利休」	2 学 期	1 ことばと文学 ○吉本ばなな 「ざしきわらし」 ○中島敦 「山月記」 ○夏目漱石 「ころも」	3 学 期	1 ことばと社会 ○立松和平 「幸せの分量」 ○山田昌弘 「家族化するペット」
	2 基礎力テスト (1回10分・月1回) 言語活動 ・情報の探し方		2 基礎力テスト (1回10分・月1回) 言語活動 ・意見文の書き方		2 基礎力テスト (1回10分・月1回) 言語活動 ・研究発表のしかた

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
国語	国語表現	2	3	セラミック デザイン 電気 機械	選択	「国語表現」 大修館書店

1. 学習の到達目標

- 1 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。
- 2 思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現する態度を育てる。
- 3 国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
評価の規準	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。	表現と理解に役立てるための音声文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。
評価の方法	授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、基礎力テストなどを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

人間は言葉によって思考します。言葉を理解する能力は人間の知的活動の根幹となるものです。また、就職試験、進学試験では、国語の基礎的な知識や表現力が必ず問われています。その意味でも、ぜひしっかり勉強して欲しいと思います。

令和4年度 国語表現指導計画案

国語表現	セラミック・デザイン 電気・機械	2単位
------	---------------------	-----

1 学習計画

学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容
1 学 期	1 書いて伝える ○整った文を書く ○わかりやすい文を書く ○文のつながり方 ○絵や写真を見て書く 2 自己PRと面接 ○効果的な自己PR ○志望動機をまとめよう ○面接にチャレンジ	2 学 期	1 小論文・レポート入門 ○小論文とは何か ○反論を想定して書く ○統計資料を読み取って書く ○レポートを書く 2 メディアを駆使する ○通信文を書き分ける ○電話を使いこなす ○ネット社会とコミュニケーション ○メディアと情報	3 学 期	1 声とコミュニケーション ○リーダーズシアターを開こうー朗読劇の楽しみ ○ショートスピーチをしよう 2 会話・議論・発表 ○相手や場面に応じた会話 ○建設的な議論の進め方 ○プレゼンテーションの工夫

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
地理歴史	地理A	2	3	全科	必修	世界に目を向け,地域に学ぶ 第一学習社

1. 学習の到達目標

現代社会に生きる私たちにとって、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養うことが大切です。地理Aでは、現代世界の地理的な諸課題について地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けることが目標です。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の規準	地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立ち諸事象を位置や空間的な広がりの中で理解すると共に、各地域の課題や将来像について考えようとする。	地理的事象から課題を見出し、諸地域を比較し関連づけて追究し、判断する。さらに地球規模の諸課題を国際協力によって解決していくための地理的認識を深めようとする。	地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどを通して地理的事象を見だし、考察し、調査結果をまとめ、表現している。	地理的事象から各地域の特性を理解し、作業的、体験的な学習を通して地理的技能を身につけ、それを系統的に使いこなすことができる程度の知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

様々な国との関わりが不可欠である現代社会において、まず「他の国や自分の住む国や地域を知ること」を通して、世界の国々に興味をもつとともに、今後の日本や地域の在り方など自身が生きる環境を地理的視点から考えてもらいたいと思います。

目 標		現代世界の地理的な諸課題について、地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	
月	大項目	中項目	時数
4	第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 1章 地球儀や地図でとらえる現代世界	①球面で世界を考えよう ②世界地図の特徴を知ろう ③世界観の広がりや地図 ④国家の領域と領土問題 ⑤国家をこえた結びつき ⑥交通機関の発達と縮小する地域世界 ⑦情報・通信で一体化する世界 ⑧人「もの」・資本で結びつく世界	6
5	2章 世界の人々の生活を取りまく地球的環境	①さまざまな環境のなかで暮らす人々 ②世界的視野から見た地形 ③さまざまな地形と生活 ④世界的視野から見た気候 ⑤世界の気候と生活 ⑥世界の民族のさまざまな生活・文化 ⑦生活・文化を支える産業の地域性	6
6	3章 世界の諸地域の生活・文化と環境	①東アジア ②東南アジアの暮らしを学ぶ ③南アジアの暮らしを学ぶ ④北アフリカ・西アジア・中央アジアの暮らしを学ぶ ⑤仲南アフリカの暮らしを学ぶ ⑥ヨーロッパの暮らしを学ぶ	8
7		⑦ロシアの周辺諸国の暮らしを学ぶ ⑧北アメリカの暮らしを学ぶ	4
9		⑨中央南アメリカの暮らしを学ぶ ⑩オセアニアの暮らしを学ぶ	8
10	4章 さまざまな地球的課題	①地域の違いとつながりに注目する ②人口問題 ③食料問題 ④都市・居住問題 ⑤資源・エネルギー問題 ⑥地球環境問題 ⑦地球的課題への取り組みと国際協力	10
11	第2編 生活圏と諸課題の地理的考察 1章 日常生活と結びついた地図	①地図をもって生活しよう ②身近な地図を読みこなそう ③地図表現について考えよう ④地形図を活用しよう	10
12	2章 自然環境と防災	①日本の自然と生活 ②自然環境に備えた暮らし	6
1	3章 生活圏と地理的諸課題と地域調査	①地域調査の方法 ②水の恵みのまち「川北町」を考える	8
2			4

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
公民	倫理	2単位(70時間)	3	全科	必修	東京書籍「倫理」

1. 学習の到達目標

先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、青年期における自己形成の課題を含めた人間の在り方生き方、人間の尊厳等について、主体的に考え、日常生活で生じる諸問題の解決をはかる能力や態度を養う。

2. 学習の計画

	単元名	学習項目	学習内容	時数
4月	第1章 青年期の課題と自己形成	○わたしたちの「いま」 1 青年期の意義 ①現代の青年 ②青年期の位置づけ ③青年期の特徴	○現代社会の諸問題や、日本の現状を考えると、生徒が生活している「いま」の状況を把握し、倫理学習の導入とする。 ○人生における青年期の位置づけ、特徴などについて考え、青年期特有の課題であるモラトリアムとしての時期、アイデンティティの確立、自己実現の追求、自己理解の方法などについて学ぶ。	3
5月		2 青年期の課題と生き方 ①主体性の確立 ②自己理解 ③幸福と生きがい		3
6月	第2章 人間としての自覚	1 人間とは何か ①人間と哲学 2 ギリシャの思想 ①自然哲学とソフィスト ②ソクラテス ③プラトン ④アリストテレス ⑤ヘレニズム時代の思想	○人間の定義について考えた上で、パスカルの言葉を手掛かりに、哲学することや、先人の思想を学ぶ意義について理解する。 ○ギリシャ思想は、自然哲学、ソクラテス・プラトン・アリストテレスの生涯と思想、中心に理解する。	2 5
6月		3 キリスト教 ①旧約聖書の倫理 ②イエスの教え ③キリスト教の展開	○世界の三大宗教であるキリスト教、イスラーム、仏教の基本的な考え方だけでなく、歴史的な成立過程や、発展、拡大の経緯についても理解する。 ○一神教であるキリスト教とイスラームの共通点や相違点について考える。	4
7月		4 イスラーム ①ムハンマドとイスラームの教え ②イスラームの展開 5 仏教 ①古代インドの思想 ②ブッダの思想 ③仏教の展開	○「慈悲」と「アガペー」の違いに着目しながら両者を比較考察する。 ○儒家、老荘思想を中心に学習し、その後の中国思想の展開についても理解を深める。	4 4
7月		6 中国の思想 ①孔子と儒家の思想 ②儒家思想の展開 ③老荘思想		4

9 月 10 月 11 月	第3章 国際社会に生きる日本人の自覚	1 日本人の精神風土 ①日本人の宗教観 ②日本人の倫理観	○古代日本人のものの考え方を，精神風土との関係でとらえるとともに，宗教観・倫理観などについて考える。	2
		2 仏教と日本人の思想形成 ①仏教の受容 ②仏教の日本的展開 ③仏教と日本文化	○外来思想である仏教の受容や日本的仏教の特色，仏教と日本人の思想形成との関わり，無常観・美意識・武士道などにおける特色を捉える。	4
		3 儒教と日本人の思想形成 ①儒教の受容 ②儒教の日本的展開	○儒教の日本的展開について，日本の朱子学や陽明学を中心に学習します。	3
		4 国学の思想 ①国学の形成と展開	○国学の特色を理解して，本居宣長の思想を中心に学習する。	3
		5 庶民の思想 ①庶民の思想の発展 ②幕末の思想	○近世日本の思想について，町人の思想，農民の思想，幕末の思想，西洋文化との接触などを学習する。	3
		6 西洋思想と日本人の近代化 ①近代への啓蒙 ②国民道徳とキリスト教 ③近代的な自己の求め ④社会思想の展開 ⑤近代日本の創造的な思想	○西洋文化との接触後，啓蒙思想，自由民権思想，国家意識，キリスト教思想などと日本人の思想形成について理解する。 ○近代の代表的な作家や文学者の思想を通して，日本人が自己の内面的世界についてのどのように思索したかを学習する。 ○近代日本の社会改革の思想や西洋思想を主体的に摂取して形成された独創的な思想について理解します。	5
		7 国際社会に生きる日本人の自覚 ①戦後思想の動向 ②グローバル化と日本人	○主体的に生きる人間として国際社会における役割と責任を果たす日本人としての自覚を形成する。 ○日本思想の中の人間観について考察する。	2
12 月	第4章 現代を生きる人間の倫理	1 人間の尊厳の根拠を求めて ①人間尊重へ向けて ②理性への信頼と懐疑 ③経験論と合理論の対話	○西洋の人間観と人間尊重の精神について，ルネサンス，宗教改革，合理的精神（ベーコンとデカルト），モラリスト（モンテーニュとパスカル），経験論と合理論の展開を学習する。	3
		2 民主社会と自由を求めて ①社会契約説 ②人格の尊厳－カント ③ヘーゲルの人倫の思想	○近代的な個人の自覚から，人間のあり方と社会との関係について，社会契約説（ホブズ，ロック，ルソー），カント，ヘーゲルの思想を理解して，考えを深める。	4

1 月		3 社会変革の倫理を求めて ①功利主義 ②社会主義思想 ③実証主義と進化論 ④プラグマティズム	○近代資本主義社会の問題とその克服について、功利主義、社会主義の思想を理解して、考えを深める。 ○人間社会の変革の思想について、実証主義や進化論、プラグマティズムの思想を理解して、考えを深める。	4
		4 新たな人間像を求めて ①主体性の回復を求めて ②現代の実存哲学 ③人間観と言語観の問いなおし	○人間や社会の在り方の急激な変化による近代的な理性への問いなおしとし、実存哲学、フランクフルト学派、構造主義など現代思想の人間観・言語観を理解する。	4
		5 自然や科学技術と人間とのかかわり ①近代的自然観 ②自然との調和	○環境問題や生命に関わる倫理的課題の解決のために、科学技術の基礎にある自然観の再検討が必要であることを、生命への畏敬の念について考慮しつつ理解を深める。	2
		6 民主社会の成熟のために ①差別と偏見のない社会 ②社会参加と奉仕 ③公共性のための場を開く	○民主社会の実現のために、あらゆる差別や偏見などの解決が求められること、またそれらとどのように関わっていくかを考える。 ○現代社会における公共性の問題について、アーレントらの思想について学習し、個人とコミュニティの関係について考えを深める。	2
1 月	第5章 現代の課題を考える (2つのテーマを選び、学習)	1 生命	○今日の生命や死、医療の問題について理解を深め、人間としての在り方生き方について考える。	(2)
		2 家族	○核家族、新しい家族形態、少子高齢化、高齢社会の中での「古い」などについて考える。	(2)
		3 地域社会	○今日の地域社会のあり方について理解を深め、これからの望ましいコミュニティについて考える。	(2)
		4 情報社会	○情報社会とは何か、その中でのメディア・リテラシーとはどうあるべきかなどを理解する。	(2)
		5 文化と宗教	○グローバル社会における文化と宗教のあり方について考えを深め、多面的な見方や共生のあり方を模索する。	(2)
		6 環境	○現在の環境問題の基本概念をふまえ、倫理的課題を明確にし、持続可能な社会のために必要な在り方生き方について考える。	(2)

		7 国際平和と人類の福祉	<p>○これまでの学習を踏まえた上で、現代世界における諸課題の倫理的問題について認識し、展望を探る。</p> <p>○物質的に豊かな社会の背後にある問題をはじめとして、本当の豊かさとは何かを考え、未来の福祉と世界の平和を構想しようとする意識を高める。</p>	(2)
--	--	--------------	---	-----

4 評価の方法

(1) 評価の観点

評価は学習で身に付ける力を次の四つの観点から把握するようにします。

関心・意欲・態度	<p>○人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。</p> <p>○倫理的な諸課題についての探究的な態度を身につけ、人間としての在り方生き方への自覚を深めようとしている。</p>
思考・判断・表現	<p>○他者と共に生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理課題などについて多面的・多角的に探究しようとしている。</p> <p>○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。</p> <p>○課題についての考察や判断の過程や結果を、様々な方法で論理的に表現している。また、それについての的確に反省し、自己評価することができる。</p>
資料活用の技能	<p>○自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題に関して様々な資料を収集、整理し、情報を主体的に選択している。</p> <p>○諸資料を自己形成のために主体的に活用し、追究した内容などを様々な方法で適切に表現している。また、それについての的確に反省し、自己評価することができる。</p>
知識・理解	<p>○青年期における自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題などに関した基本的な事柄を他者と共に生きる自己の確立の課題として理解している。</p> <p>○さらに、自己の人格形成や課題解決のために生かす知識を身に付けている。</p>

(2) 評価の時期と方法

ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況の評価します。

イ 小テスト、課題提出状況や発表等を評価のための資料とします。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
数学	数学Ⅱ	2	3	全科	必修	数学ⅡStandard 東京書籍

1. 学習の到達目標

いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の規準	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分における考え方や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

1. 教科からのメッセージ

負の角や 360° より大きい角を考えたり、累乗の指数に自然数だけでなくいろいろな値が入れられるようにしたりして、数量の範囲を広げ、今までとは違った数学の見方、考え方をしていきます。また、座標を使って直線や図形の性質を調べたり、微分積分を使ってグラフを描いたり面積を求めたりします。このようなことを学習することで、数学の世界が広がり、いろいろな現象に対する有用性もわかり、数学を考える楽しさが増してくるはずですよ。

4. 年間指導計画

【 数学Ⅱ 】	指導項目	進 度	【 数学Ⅱ 】	指導項目	進 度						
第1章 式と証明 1 整式の乗法と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式の乗法・除法 5 分数式の加法・減法 6 恒等式 7 等式の証明 8 不等式の証明 9 相加平均と相乗平均		2年次	第2節 加法定理 1 加法定理 2 加法定理の応用 3 三角関数の合成		3年次						
		4月			5月	5月					
		5月									
		第2章 複素数と方程式 1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 解と係数の関係 4 剰余の定理と因数分解 5 高次方程式の解法		6月	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1 指数法則 2 指数関数とそのグラフ 3 対数 4 対数の性質 5 対数関数とそのグラフ 6 常用対数		6月				
				7月			9月	7月			
				9月							
				第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の平行と垂直 第2節 円、軌跡と領域 5 円の方程式 6 円と直線 7 軌跡 研究 線分の midpoint の軌跡 8 不等式の表す領域 9 連立不等式と領域		10月	第6章 微分と積分 第1節 微分法 1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 微分法の公式 4 接線 5 関数の増減 6 関数の極大・極小 7 関数の最大・最小 8 方程式・不等式への応用 第2節 積分法 9 不定積分 10 不定積分の計算 11 定積分 12 定積分の性質 13 面積		10月		
						11月			11月	11月	
		12月									
		1月	1月			2月					
2月	3月	2月									
3月											
第4章 三角関数 第1節 三角関数 1 一般角 2 弧度法 3 三角関数 4 三角関数の性質 5 三角関数のグラフ 6 三角関数を含む方程式・不等式		1月									1月
		2月									3月
		3月									

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
数学	数学B	2	3	全科	選択	数学B Standard 東京書籍

1. 学習の到達目標

ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の規準	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

ベクトルでは力と力が合わさったり、ぶつかったりしたらどうなるかを考えます。また、数列では映画や本で流行っていた「ダヴィンチ・コード」でもフィボナッチ数列として登場しました。数字がある規則に従って並ぶことで数学的に考えることが出来ます。内容としては難しいところもありますが、それだけ、自由な発想や論理的思考力が身に付くのではないかと考えます。

4. 年間指導計画

【 数学B 】	指 導 項 目	進 度
第1章 平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの和 3 ベクトルの差 4 ベクトルの実数倍 5 ベクトルの成分 6 ベクトルの成分と演算 7 ベクトルの内積 8 ベクトルの平行・垂直 9 内積の性質 第2節 ベクトルと平面図形 10 位置ベクトル 11 ベクトルと図形 12 ベクトル方程式	4月 5月 6月 7月
第2章 空間のベクトル	1 空間の座標 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分と演算 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 空間図形への応用	
第3章 数列	第1節 数列とその和 1 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 6 和の記号 Σ 7 自然数の2乗の和 8 いろいろな数列の和 9 階差数列 第2節 漸化式と数学的帰納法 10 漸化式と一般項 11 数学的帰納法	9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
保健体育	体育	3	3	全科	必修	なし

1. 学習の到達目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
評価の規準	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めているための運動の合理的な行い方を身に付けている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・プリントなどの提出物の状況、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

体育の授業では、体づくり運動、体育理論、選択制（希望種目）授業を行っており、学期ごとに種目を変えています。また、新体力テストの実施も行っています。

単に一過性の楽しさの追求だけでなく、技能を習得したり、高めたりする喜びや、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質を養うことが大切です。

年間指導計画 科目名 保健体育（体育） 3単位 3学年

学期	月	学習項目 (単元・考査など)	おもな学習内容
1 学期	4 5	体育理論 体づくり運動 (スポーツテスト含む)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体に関心を持ち、自分の体力や生活に応じた課題を持って運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに、これらの運動を生活の中で実践することができるようにする。 体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようにする。
	6 7	体育理論 選択Ⅰ 陸上競技 ダンス 器械運動	<ul style="list-style-type: none"> 自分の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようにする。 互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。 リズムのとり方や動き方、相手との対応のしかたなど自由に工夫できるようにする。 まとまりのある動きを工夫して踊ったり作品にまとめ発表しあったりできるようにする。
2 学期	9 10	体育理論 選択Ⅱ バレーボール ソフトボール ダンス	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 生涯にわたって親しめるように、各競技の特性や効果的な練習法、正しい審判法、ゲームの運営などについて理解する。 リズムのとり方や動き方、相手との対応のしかたなど自由に工夫してみんなで踊りを楽しみ、交流することができるようにする。
	11 12 1 2 3	体育理論 選択Ⅲ バスケットボール サッカー バドミントン 武道（剣道、柔道）	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 生涯にわたって親しめるように、各競技の特性や効果的な練習法、正しい審判法、ゲームの運営などについて理解する。 互いに相手を尊重する態度や公正な態度で安全に練習や試合ができるようにする。 武道の特性や伝統的な行動の仕方を理解する。
3 学期			

外国語	英語表現 I	2	3	全科	選択	SELECT English Expression I (三省堂)
-----	--------	---	---	----	----	-----------------------------------

1. 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2. 学習の評価

評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語 表現の能力	言語や文化についての知識・ 理解
評価の規準	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に英語で意思伝達を図ろうとしているか。	事実や意見などを論理の展開や表現方法に工夫しながら英語で伝えているか。	英語の語法・運用についての知識を身につけるとともに、背景にある文化を理解しているか。
評価の方法	授業態度、提出物、小テスト、定期考査、口頭表現テスト		

3. 教科からのメッセージ

英語は今では世界中で使われることが最も多く、国際語のひとつに考えられています。人と人をつなぐのは言葉であり、言葉が通じるのは世界中の人々と繋がりがあえるということです。英語という世界共通の言葉を学ぶことにより多くの人々の考えを知ることができるからです。

「英語表現」では、これまで学んだ内容を応用しながら、日常使用されるやさしい表現を使って、身近な話題について英語で表現ができる基礎的な力を養います。授業を通じて、お互いの意思を伝え合う感動を味わってください。

4. 年間指導計画

教科書： SELECT English Expression I (三省堂)

A: コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 B: 外国語 表現の能力
C: 言語や文化についての 知識・理解

学期	月	学習項目	配当 時間	学習内容・言語材料	評価の観点		
					A	B	C
I	4	Introduction	5	・英語学習の目的 ・英語の学習内容・自己表現	○	○	○
	5	Lesson 11 はやぶさ2の挑戦	7	友達としていることについて書いたり話したりする表現に親しむ。 動名詞	○	○	○
	6	Lesson 12 不思議な絵	7	「芸術作品およびその作者」について書いたり話したりする表現に親しむ。 受動態	○	○	○
	7	Speaking Station 3 どこが違う？	6	違いや位置関係の説明など、描写したり、表現することに慣れる。	○	○	○
II	9	Daily Conversation 3 「道案内」の表現	7	特有の場面で使用される日常会話表現に慣れる。	○	○	○
	10	Lesson 13 ヒエログリフ	7	「過去に見た面白かったこと」について書いたり話したりする表現に親しむ。 分詞： 現在分詞/過去分詞	○	○	○
	11	Lesson 14 私たちの街にガオー	7	友達の特徴（得意なことなど）」について書いたり話したりする表現に親しむ。 関係代名詞： that, who, which	○	○	○

	12	Lesson 15 書道甲子園	6	忘れられない出来事」について書いたり話したりする表現に親しむ。 関係代名詞： what	○	○	○
III	1	Lesson 16 どれが一番？	6	何か比べて自分の好きな方を選んで書いたり話したりする表現に親しむ。 比較表現	○	○	○
	2	Lesson 17 限りある水	7	昨日見た(聞いた)こと」について書いたり話したりする表現に親しむ。 知覚動詞／使役動詞	○	○	○
	3	Lesson 18 ピサの斜塔	4	タイムマシンがあればしてみたいこと」に表現する表現に親しむ。 仮定法過去	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
外国語	英語会話	2	3	全科	選択	Hello There! English Conversation (東京書籍)

1. 学習の到達目標

英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題に関する英語での会話を聞き取ったり、英語で会話したりできる基礎的な能力を養う。

2. 学習の評価

評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語 表現の能力	外国語 理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
評価の規準	英語に関心を持ち、意欲的に授業に参加してコミュニケーションを図ろうとする態度が見られるか。	自分の考えなどを英語で表現しようとして努力しているか。 標準的な発音で英語を話そうとしているか。	英語を聞いたり話したりして、相手の考えや話の内容を理解しようとしているか。	英会話で使われる基本的な語彙や語法などの知識を身につけているか。 また、言語の背景にある文化・習慣などを理解しているか。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習への取り組み、提出物、小テスト、定期考査、パフォーマンステスト、発表などをもとに、総合的に評価します。			

3. 教科からのメッセージ

英語は外国語の一つに過ぎませんが、今では世界中で使われることが最も多く、また、ほかの言語に比べ簡単に学ぶことができるため、国際語のひとつに考えられています。

人と人をつなぐのは、まず言葉です。お互いに言葉が通じるのは、素晴らしいことです。英語という世界共通の言葉を学ぶことにより、自分の思いを世界中の多くの人々に伝えることができるだけでなく、多くの人々の考えを知ることができるからです。

「英語会話」では、これまで「英語Ⅰ」、「英語表現」で学んだ内容を復習しながら、日常使用されるやさしい表現を使って、身近な話題について英語で会話ができる基礎的な力を養います。授業を通じて、お互いの意思を伝え合う感動を味わってください。

You can do it! やればできる! Let's challenge!.

4. 年間指導計画表

教科書： Hello There English Conversation (東京書籍)

A: コミュニケーションへの 関心・意欲・態度

B: 外国語 表現の能力

C: 外国語 理解の能力

D: 言語や文化についての 知識・理解

学期	月	学習項目	時間	学習内容・言語材料	評価の観点			
					A	B	C	D
I	4	Lesson 1 Nice to Meet You	5	初対面のあいさつ 自己紹介の流れの理解 対話相手の発言内容理解と応答 be 動詞と一般動詞、助動詞 (shall)	○	○	○	○
	5	Lesson 2 Hello, Friends!	7	許可を求める・与える 相手について尋ねる・答える リストアップする 助動詞 (may)、疑問詞を用いた疑問文	○	○	○	○
	6	Lesson 3 My Favorite Music	7	意見を言う リストアップする 助動詞 (can)、What+名詞を用いた疑問文	○	○	○	○
	7	Sakura's Adventure Episode 1	6	入国審査 ・ May I see your passport? ・ What's the purpose of your visit? ・ How long will you stay?	○	○	○	○
II	9	Lesson 4 What Are You Crazy about?	7	興味・関心を伝える 誘う・誘いを断る 現在進行形、助動詞 (would / might)	○	○	○	○
	10	Lesson 5 A Friendly Potluck Dinner	7	許可を求める・許可する 説明する 主語の省略と命令文、否定詞を含む疑問文	○	○	○	○
	11	Lesson 6 Are You All Right?	7	同情する 事情を理解する 現在進行形 (未来)、命令文	○	○	○	○
	12	Lesson 7 Talking about Our Town	6	描写する 距離・方角 時間と距離・方角に関する it の用法	○	○	○	○
III	1	Lesson 8 Traditional Culture	6	予定を尋ねる・答える 習慣を尋ねる 疑問文中の省略、未来を表す現在進行形	○	○	○	○
	2	Lesson 9 Equal Roles	7	感想・感情を述べる to 不定詞 + that 節、感嘆文 What a/an ~!、否定詞 not を含む疑問文	○	○	○	○
	3	Lesson 10 Helping Each Other	4	推測する・主張する 動名詞主語 What is ~ like?	○	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	課題研究	4	3	デザイン	必修	なし

1. 学習の到達目標

普段の生活の中から、こうすればもっと良くなる、便利になる、役に立つというような事柄や問題を見つけ、そのためにどういったことをすればその問題が解決できるのかを考え、結果を出していきます。この授業ではその解決策を見つけていくことを目標としています。問題を整理し、解決すべきポイントを定めデータ収集をします。現代はホームページを使うことが多いですが、それだけでは十分ではありませんので、校外に出て集めるということも必要になります。集めたデータを分析し、解決方法を考えていきます。最終的には解決策を何らかの形で提案します。平面作品、立体作品、写真や映像、CGなど様々な方法で展示し、解決に至るまでのプロセスと結果を発表します。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	課題を自ら設定し、その解決を図ることに興味があり、問題解決に向けて意欲的に取り組む学習態度を身につけている。	課題解決のために自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く解決する資質や能力を身につけている。	計画を立て、制作や調査・研究を行い、結果を整理・発表し、研究を深めることができる能力と、表現力を身につけている。	課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、工業の役割、環境、自らの進路等、関連知識について総合的に理解できている。
評価の方法	出席状況、制作態度、計画性、情報収集力、分析力、解決能力、作品の完成度、作品展示、中間発表、最終プレゼンテーションなどを総合的にみて判断し、評価します。			

3. 教科からのメッセージ

課題研究は年間を通じて取り組み、最終的には卒業制作展で成果物を展示し、課題研究発表会ではその成果のプレゼンテーションを行います。2年間で学んできたデザインの知識や技術の経験を活かして学習に励んで欲しいと思います。

課題研究は生きたテーマ（問題点）を社会から見つけ、自分で設定して解決方法を提案する学習です。デザインが、地域社会、地域産業において、果たすことのできる役割を見つけて下さい。

3年 課題研究 年間指導計画表

単位数（4単位） 教科書：なし

目 標	工業（デザイン）に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通じて、専門的な知識と技術の深化、統合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。		
月	大項目	中項目	時数
4	作品制作 調査・研究	1. グループ編成	1
		テーマ設定	4
		年間研究計画の作成	2
5		情報・資料収集	5
6		2. 情報・資料収集 調査・研究（フィールドワーク等）	1 2
7		3. 情報・資料収集 調査・研究（関係機関との協議等）	1 6
		4. 情報・資料収集 調査・研究（制作） 中間発表	8
8		※夏季休業中は現地視察や資材等研究	
9	作品制作 調査・研究	調査・研究・制作	4 8
10			
11			
12		まとめ（研究成果の提示）	1 2
1	作品発表準備	展示発表の準備 卒業制作展での研究成果発表	1 2
2		課題研究集冊子の制作	8

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	実習	6	3	デザイン	必修	なし

1. 学習の到達目標

- | |
|--|
| <p>① ポスター制作 テーマを設定したポスターを制作します。告知ポスター、地域の催事、観光地など、テーマに応じた効果的な表現方法を考えていきます。</p> <p>② ポートフォリオ制作 仕様に沿った形で、情報伝達力、訴求力のあるグラフィックを作成します。</p> <p>③ 絵本制作 ストーリー性のあるもの、幼児向けの学習効果をねらったもの、詩とイラストで構成されたものなど色々あります。絵本の持つ機能や効果を調べ、オリジナルの絵本を制作します。</p> |
|--|

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識
評価の規準	課題の趣旨に関心を持ち、制作計画をたて、意欲的に取り組むことができる。	課題のテーマを理解し、自身のコンセプトに基づいてアイデアを練ることができる。	完成度の高さを求め、適切な表現法で制作ができる。	課題の条件を正確に理解して制作し、合評会では自分の考えをわかりやすく説明ができる。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況（制作態度、情報収集力、アイデアスケッチなどでじっくりと構想を練っているか）、計画的に制作ができているか、作品の完成度などを総合的に判断して評価します。 また、合評会などの意見発表で自己評価力を見ます。			

3. 教科からのメッセージ

<p>3年生ともなると課題の数は少なくなりますが、紙面は大きくなり、量が増え、質も高いものを要求されますので、1つの作品を完成するまでに多くの時間を費やします。構成や表現方法も自分たちで工夫しますので、描画材料も自分の表現方法にあったものを使っていきます。鉛筆からコンピュータまで様々です。そのためには1年次から制作を通して学んだことを実際的に課題に還元できる応用力が必要です。また普段の生活において、いろんな事に広く興味・関心を持つことが、客観的且つオリジナリティに溢れた作品につながります。</p>

3年 実習 年間指導計画表

単位数（6単位） 教科書：なし

目標	工業の各分野（デザイン）に関する基礎的な技術を実際の作業を通じて総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
----	---

月	大項目	中項目	時数
4	ポスター制作1	(1) ポスターを制作するにあたって	66
5	ポスター制作2	(2) 優れた作品から学ぶ (3) テーマの選定 (4) アイデア、表現への展開	
6		中間合評 ※完成作品は佐賀県美術展へ出品・仕様書に従って、内容を把握する	
7			
8	ポートフォリオ制作	・伝達すべき内容が伝わる画面構成 (1) 画像の表現 (2) 文字情報の処理	
9			
10	絵本制作	・オリジナル絵本制作 (1) 企画・構成 (2) イラストレーション (3) スキャニング・画像補整 (4) レイアウト (5) プリントアウト (6) 製本	
11			
12			
1			
2			

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	デザイン史	2	3	デザイン	選択	デザイン史 電機大

1. 学習の到達目標

人間の造形作品は、時代・地域により特定のスタイルを持っている。各時代や地域に現れた独自の文化を学ぶことによって、造形様式の中に表されている社会の思想・世界観や美意識、さらに当時の生産技術の内容や造形素材に対する認識までも読み取り、これからの時代のデザインのあり方を考え、造形活動に生かすことができるようにする。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	デザイン史に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立って自己の属する国や地域で展開していった出来事を理解するとともに、自己の創作活動や技術の勉強に役立てることができる。	歴史的事象から課題を見出し、デザイン史成り立ちを歴史的な視野から多面的・多角的に考察し、現代の諸課題を歴史的な観点から追及し、自己の課題に役立てる。	教科書や資料を使って、うまくノートにまとめることができ、後の学習にやくだてることができる。同時にデザイン史についての知識を深く理解でき定着させることができる。	諸国の文明の発達とデザイン史の展開をわが国のデザイン史の展開との関係に留意しながら理解し、その知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

人間の造形物には作者の思想や感情が込められている。こうした造形の中にある人間の精神活動を文化と呼ぶならば、デザインの歴史は造形文化の歴史を中心とした営みだといえる。デザインの歴史を追っていくこと、ものに込められた感情を読み取る作業は知りたい欲求を十分に満たしてくれるものと考えよう。

3年 デザイン史 年間指導計画表

単位数（2単位） 教科書：デザイン史（東京電気大学出版局）

目標	造形とデザインの歴史を理解させ、実際に創造し鑑賞する能力と態度を育てる。		
月	大項目	中項目	時数
4	デザイン史における近代デザインの位置づけ	デザイン史を学ぶことの意義（理論） 近代デザインのはじまり 産業革命の影響とデザイン	6
5	アーツ・アンド・クラフツ運動	ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動	14
6	アール・ヌーヴォー	アール・ヌーヴォー	
7	近代デザインの成立と展開	科学技術の発達 近代美術の革新	10
9	近代デザイン運動の試み バウハウス	デ・スタイル	24
10		ドイツ工作連盟	
11		バウハウス	
12		ニュー・バウハウス	
1	アール・デコ 現代のデザイン	アール・デコ	16
2		現代デザイン	

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	プロダクトデザイン	2	3	デザイン	必修	デザイン材料

1. 学習の到達目標

プロダクトデザインでは工業製品のモデルを作ることを行います。工業製品とは工場で大規模生産できるものを言いますが、生産に入るためにはその商品の元となるモデルが必要です。この科目は2, 3年の2年間で学びますが、3年次は社会生活に適応した、より使いやすい製品を身近なものとして考えてもらうために、アイデアから図面作成、モックアップモデル制作に至るまでを学習します。完成に至るまでの行程も計画性を持ち、必要な道具や必要な素材を用いての総合的な造形力も身につける。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	制作に関する技術に関心を持ち、生活の改善・向上を目指し、創造的、実践的態度を養う。	制作に関する技術およびその用途に関する問題を広い視野から考え、その解決策を適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	環境に適応した製品を作り出すために製品に関する基礎的な技能・技術を身につけ、計画性のある処理能力と表現能力を身につけている。	あらゆる生活の中においてプロダクトデザインが果たすべき役割について学び、その必要性について理解している。
評価の方法	出席状況 授業態度 作業能力 計画性 (アイデア→図面制作→作品制作) 提出期限などを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

工業製品（立体物）をより身近に感じてほしいと思います。基本・基準となる形状の美しさや加工技術など大切さを知ることは他の作品制作にも繋がるものがあります。

石膏、木材、粘土など様々な素材を使って作品制作をします。立体物の制作は計画性が必要ですので、計画的に製作するように心がけて受講して下さい。

3年 プロダクトデザイン 年間指導計画表

単位数（2単位） 教科書：デザイン材料

目標	社会生活に適応した、より使いやすい製品のアイデアを考え、それらのモデルを制作します。誰もが使いやすく、色彩や形状が美しい製品開発を目指します。			
月	大項目	中項目	時数	
4	立体デザインの演習	1. アイデアスケッチ	45	
5		2. 図面作成		
6		3. 素材を用いた成型作業・仕上げ作業		
7		4. 合評会		
8		工業製品のモックアップ（試作品）モデル制作		1. アイデアスケッチ
9				2. 図面作成
10				3. 素材を用いた成型作業・仕上げ作業
11	4. 合評会			
12				
1				
2				
3				

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
家庭	子どもの発達と保育	2	3	ゼミック	選択	子どもの発達と保育教育図書

1. 学習の到達目標

子どもの発達の特長や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の規準	子どもに関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの発達や子育て支援に寄与していきこととする実践的な態度を身に付けている。	子どもの発達をふまえ、現状について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	子どもの発達の特長、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、課題・レポート・作品などの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

子どもの発達と保育では、子どもとのかかわりが子どもの育ちにとってとても大切な役割を持っていることを学びます。また、自分のあり方を振り返るということでもあります。さらに、保育とは子どもとともに育ちあうことといえるでしょう。

親だけでなく子どもを取り巻くすべての人々が、子どもの育ちについて学び、どのようにしたら人はいきいきと成長していくことができるのかを考えていきましょう。

「子どもの発達と保育」年間計画 単位数 (2 単位) 教科書 (教育図書)

月	学習内容	ねらい
4	1章 子どもの発達の特性 1節 発達と乳幼児期の意義 実習：マスク製作 あかちゃん甚平製作	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関心を持ち、乳幼児期の意義について理解する。 ・子どもの快適な衣生活について理解する。
5	2節 発達と環境 発達と保育環境のかかわり 実習：あかちゃん甚平製作	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と保育環境のかかわりについて知り、保育環境を整えることの重要性について思考を深める。 ・被服製作をとおして子どもの衣生活を管理する力を身につける。
6	2章 子どもの発達過程 子どもの発育 子どもの精神発達 実習：絵本の読みかたり	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生について関心を持ち、乳幼児の身体的特徴と生理的特徴についての知識を習得する。 ・子どもの精神発達の特徴を学び、乳幼児期が人格形成上大切な時期であることを理解する。 ・絵本の読みかたりをとおして子どもの精神発達を考える。
7	3節 人間関係の発達 実習：離乳食おやつづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の発達と子どもの人格形成について思考を深めるとともに、反抗期や子どもの行動の特徴を理解する。
9	3章 子どもの生活 生活と養護 子どもの遊び 実習：音楽リズム表現技術	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康を維持増進し順調な成長を促すうえで、発育や発達に応じた養護が必要なことを理解する。 ・子どもは遊びを通して発達することを理解し、遊びの援助ができるようにする。
10	子どもの健康と生活 子どもの食事 子どもの衣服 子どもの健康管理 実習：造形表現技術	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣と社会的な生活習慣の意義と重要性を理解し、子どもの発達に即した適切な生活習慣について考える。 ・子どもの健康を守るための保育者の役割と子どもの病気・事故の特徴を知り、予防の必要性を理解する。
11	4章 子どもの保育 1節 保育の意義と目標 2節 保育の方法 実習：保育の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義と重要性に関心を持つ。 ・家庭保育と集団保育のそれぞれの特徴や役割を知り、子どもの発達に両方が必要であることを理解する。
12	5章 子どもの福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解する。
1 2	2節 子育て支援 実習：絵本づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の意義と現状を理解し、課題と展望を考える。 ・子どもの児童文化財である絵本について学び、子どもの発達に応じた絵本を製作する。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	ビジュアルデザイン	2	3	デザイン	選択	なし

1. 学習の到達目標

コンピュータを使用したさまざまなデザイン演習を通して、ビジュアルデザインについての特性を知り、ここに応じた適切な企画制作ができる知識と能力を身につける。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価の規準	視覚伝達の機能と現代社会との関わり合いに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。	視覚伝達としてふさわしいデザインを考え、その善し悪しの判断をすることができる。	視覚伝達としてふさわしいデザインを考え、技能を駆使して表現することができる。	視覚伝達デザインの種類とその用途に関して正しく理解し、知識とすることができる。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題などの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

コンピュータを使って、印刷物を中心とした伝達を行うデザインを勉強します。2年次の学習を踏まえて、デザインの基本を守りながら時代に即した高校生らしい作品を期待しています。

3年選択 ビジュアルデザイン 年間指導計画表 単位数（2単位）

目標	印刷物を中心とした演習を通してビジュアルデザインの表現手段についての知識を深めると同時に、制作にあたって使用するコンピュータの操作、制作技術を習得する。		
月	大項目	小項目	時数
4月	オリエンテーション		2
5月	作品集（ポートフォリオ）の制作	写真撮影	4
5月		[学習内容] ページ構成の基本理解 レタッチ 画像編集 文字の入力 情報デザイン	12
6月	演習 1	紙面構成とレイアウト	6
7月		[学習内容] 画素の理解 レイアウトの基本 ルーラー、整列 複数ページの編集の仕方 イラストレータとの関連	12
9月	演習 2	演習 プレゼンテーション（3分間） テーマ設定 情報の収集、整理、分析 スライド作成 シナリオ制作	6
10月		効果的なアニメーション作成 プレゼンテーション	
11月	プレゼンテーション （課題研究と連携）	課題研究プレゼンテーション作成 テーマ設定 情報の収集、整理、分析 スライド作成 シナリオ制作 プレゼンテーション	12
12月			
1月 2月	課題研究集 （課題研究と連携）	課題研究集原稿作成	8

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	素描	2	3	デザイン	選択	スーパー鉛筆デッサン (グラフィック社)

1. 学習の到達目標

素描は、対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高めることを目的としています。デザイン科3年次の内容は、生徒の進路希望等に応じて、デッサン、スケッチ、鑑賞を弾力的に取り扱います。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
評価の規準	対象に深く迫り、課題に意欲的な態度で取り組むことができる。	対象の構造を、多角的に捉え、見えていない形の裏側を探りながら表現できる。	表現意図に合った用具を正しく使い、対象のもつイメージや空間を表現できる。	課題の条件を正確に理解して制作し、合評会で学習した知識を制作に生かすことができる。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題などの提出物の状況などを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

2年次の素描で学んだ、対象への深い観察、構造理解、的確な表現をさらに深めるのが、本単元です。3年次では高校生活の集大成として、対象を取り巻く空間を描く、という視点を持ち制作をします。その素描の訓練を通して、物事の見方や自分らしい表現方法で仕上げます。進路先を視野に入れて、各自で出題傾向に応じた内容に取り組む。

3年 素描 年間指導計画

単位数 (2単位)

目標	造形表現の基礎となる形態や空間などを把握させ、的確な観察力を養い、表現と鑑賞の能力を高める。			
月	大項目	中項目		時数
4	オリエンテーション	評価基準や年間計画について		1
4	空間を意識した基礎表現 有機物による表現	1. 顔と手をモチーフとした表現		19
5				
6		2. 合評		1
6	静物デッサン (基礎)	1. 集合モチーフの空間表現		9
7		2. 合評		1
9	進学対策展開授業	進学対策	就職対策	14
10		希望大学実技デッサン	モチーフデッサン (応用1)	
		合 評	合 評	1
11	進学対策展開授業	希望大学実技デッサン	モチーフデッサン (応用2)	14
12		合 評	合 評	1
1	進学対策展開授業	木炭デッサン	着彩表現 (応用)	10
2		合 評	合 評	1